舞鶴工業高等専門学校	開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	建設システム工学概論 I

科目基礎情報

科目番号	0002	科目区分	専門 / 必修
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	建設システム工学科	対象学年	1
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	授業中にプリント等を配布する。		
担当教員	徳永 泰伸,今村 友里子		

到達目標

1　建築の歴史を理解する。
2　建築環境・設備の基本を理解する。
3　環境問題について理解する。
4　建築の計画について理解する。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安(不可)
評価項目1	建築の歴史を理解し、説明できる。	建築の歴史を理解している。	建築の歴史を理解していない。
評価項目2	建築環境・設備の基本を理解し、説明できる。	建築環境・設備の基本を理解している。	建築環境・設備の基本を理解していない。
評価項目3	環境問題について理解し、説明できる。	環境問題について理解している。	環境問題について理解していない。
評価項目4	建築の計画について理解し、説明できる。	建築の計画を理解している。	建築の計画を理解していない。

学科の到達目標項目との関係

学習・教育到達度目標 (ii -a1) 学習・教育到達度目標 (ii -a2) 学習・教育到達度目標 (ii -a3) 学習・教育到達度目標 (ii -a4) 学習・教育到達度目標 (ii -c4)

教育方法等

概要	建設（土木・建築）技術は人（個人，市民）が生活する空間の整備に必要な技術である。地域の安全・安心の確保と持続に加えて，成熟した社会において市民の生活空間の快適さや魅力あるまちづくりを行うことのできる建設技術者となるために必要な基礎知識を学ぶ。
授業の進め方・方法	【授業方法】 毎週、授業中にその週で学習した内容のプリント課題に取り組む。 講義を中心に進めるが、授業中に模型制作なども行う。 【学習方法】 授業では板書をノートに写しとること。 興味を持った建築家や建築物を自分で調べてみること。
注意点	【成績の評価方法・評価基準】 50分の中間試験および授業中のレポートや提出物により成績を評価する。到達目標に基づき，各項目の到達度を評価基準とする。 【教員の連絡先】 教 員 名　徳永 泰伸、今村 友里子 研 究 室　A棟2階（A-221　徳永），（A-218　今村） 内線電話　8985（徳永），8982（今村） e-mail:　tokunagaアットマークmaizuru-ct.ac.jp（アットマークは@に変えること。） y.imamuraアットマークmaizuru-ct.ac.jp（アットマークは@に変えること。）

授業の属性・履修上の区分

□ アクティブラーニング	□ ICT 利用	□ 遠隔授業対応	□ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	シラバス説明，建設システム工学科について	
		2週	建築史（三大建築家）	1
		3週	現代建築1	1
		4週	現代建築2	1
		5週	建築環境1（熱環境）	2
		6週	建築環境2（光環境・音環境）	2
		7週	建築設備	2
		8週	中間試験	
	2ndQ	9週	現場見学会	
		10週	地球環境	3
		11週	建築模型制作1	4
		12週	建築模型制作2	4
		13週	建築模型制作3	4
		14週	住宅プランニング1	4
		15週	住宅プランニング2	4
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	工学基礎	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	社会における技術者の役割と責任を説明できる。	3	前1
				国際社会における技術者としてふさわしい行動とは何かを説明できる。	3	前6
				全ての人々が将来にわたって安心して暮らせる持続可能な開発を実現するために、自らの専門分野から配慮すべきことが何かを説明できる。	3	前6,前7
				技術者を目指す者として、平和の構築、異文化理解の推進、自然資源の維持、災害の防止などの課題に力を合わせて取り組んでいくことの重要性を認識している。	3	前6,前7
				科学技術が社会に与えてきた影響をもとに、技術者の役割や責任を説明できる。	3	前4
				科学者や技術者が、様々な困難を克服しながら技術の発展に寄与した姿を通し、技術者の使命・重要性について説明できる。	3	前6
専門的能力	分野別の専門工学	建設系分野	環境	地球規模の環境問題を説明できる。	3	前10
		建築系分野	環境・設備	風土と建築について説明できる。	3	前1
				気候、気象について説明できる。	3	前10
				照明計画および照度の計算ができる。	3	前5
				表色系について説明できる。	3	前5
				温熱環境要素について説明できる。	3	前4
			施工・法規	工事の流れ(仮設・準備・基礎・地業・躯体・仕上げ・設備(電気・空調・給排水・衛生)・解体)について説明できる。	3	前11,前14

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	50	0	0	0	50	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	50	0	0	0	50	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0